

本リリースは京都市交通局からも京都市政記者室宛にご案内しています。

## NEWS RELEASE



2021. 10. 15 <計3枚>

京都大学記者クラブ加盟社 各位

立命館大学広報課

**京都市交通局×映像学部 社会連携プログラム**  
**「市民の足として市民生活を支える市バス・地下鉄」PR映像が完成**  
10月25日（月）から四条駅および京都駅のデジタルサイネージに掲出

立命館大学映像学部の学生が京都市交通局との連携を通じて制作したPR映像3作品が、10月25日（月）から順次、四条駅および京都駅のデジタルサイネージに掲出されることとなりましたので、お知らせします。

映像学部は、企業や学外機関と連携して、具体的な目標や目的の達成を目指すコンテンツの共同開発、共同研究を行う実践型科目「社会連携プログラム」を設置しています。京都市交通局との連携プログラムは、2017年4月に始まったもので、15回の授業を通じて、学生たちが市バス・地下鉄の利用促進や利用時のマナーアップをテーマに、企画立案から映像制作、社会発信までのすべてに取り組みます。

今年度は、「市民の足として市民生活を支える市バス・地下鉄」をテーマに、これまで市バス・地下鉄が市民の生活の基盤となってきたこと、コロナ禍で世の中が変わるなかでも状況に応じて変化し、いつもどおりの生活を支えていることなどを、30秒の映像作品のなかで表現しました。デジタルサイネージをスマートフォンの画面に見立て、学生たちに通学等で日常的に利用する地下鉄を再認識してもらえるよう工夫した映像や、SF映画のような近未来的な演出で京都市交通局の革新性を表現した映像もあります。

学生たちの学びの成果でもある、創意と工夫が込められた各作品に、ぜひご注目ください。

### 記

掲出開始日：2021年10月25日（月）以降順次

掲出場所：四条駅、京都駅のデジタルサイネージ

※地下鉄四条駅は北改札口、京都駅はコトチカ広場に設置しています

映像内容：別紙参照

制作メンバー：映像学部開講科目「社会連携プログラム」受講生 3名（2回生以上）

以上

●取材・内容についてのお問い合わせ先

立命館大学映像学部事務室 担当：谷口

TEL. 075-465-1990

## 別紙

### 1. 立命館大学映像学部について

アート、ビジネス、テクノロジーを総合するアプローチで映像分野における「プロデュース」能力を育成し、社会の活性化と生活の質の向上につながる映像文化を創造する人材の育成をめざす目的のもと、日本で初めて映像に軸をおいた総合大学芸術系学部として、2007年、衣笠キャンパスに開設。

2024年には、映像学部・映像研究科の新展開として、大阪いばらきキャンパス(OIC)への移転が決定しています。

### 2. 社会連携プログラムについて

映像学部は、開設以来、実際のコンテンツ開発の現場を授業の中で体験し、実践的な知識と技術を習得するため、企業や学外機関と連携し、具体的な目標、目的をもったコンテンツの共同開発、共同研究を実施する科目「社会連携プログラム」(2021年度は6クラス開講、37名が受講)を設置しています。

京都市交通局とは、2017年度から連携し、市バス・地下鉄のPR映像を制作しています。若い感性による斬新なPR動画の制作と、広告制作過程の体験による学生の実践的な学びを通じた人材育成を目的としています。

### 3. PR映像について

#### 映像内容 (各動画 30秒)

#### (1) 棚原こころさん



#### ★ポイント

Instagramのストーリー機能で使われる「ばいばいぐるむ」をモチーフに、サイネージをスマホ画面に見立てた映像を制作。利用客の京都市民にとって地下鉄はそれぞれの帰路に付く別れ際の舞台であり、それを「思い出(ストーリー)の終着点」と表現した。

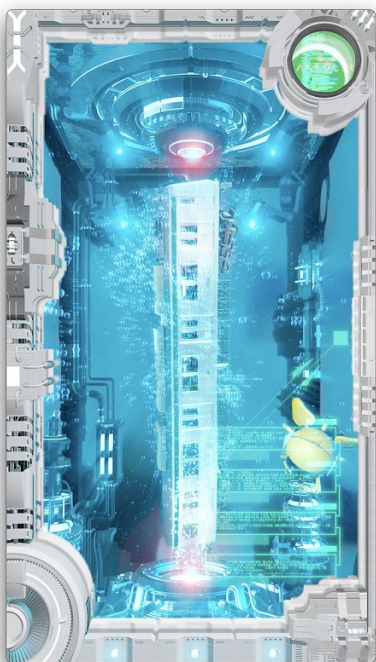
(2) 河村風花さん



★ポイント

新型コロナウイルスの影響で緊急事態宣言が発令されるなど、先の見えない状況が続いている。そのような中で、終電の繰り上げなど状況に応じ変化しつつも変わらず市民生活に寄り添い、支える交通局の姿を表現した。

(3) 小幡宙生さん



★ポイント

京都市地下鉄の車両がリニューアルされることを受け、その新鮮なイメージを近未来的な映像で表現する。SF映画に登場するような「培養槽」で、新型車両へ生まれ変わろうとしているワクワク感のある動画を制作。